

運河を越えて
みなと
港を
ちまた
巷に
“for our Future”

空間デザイン

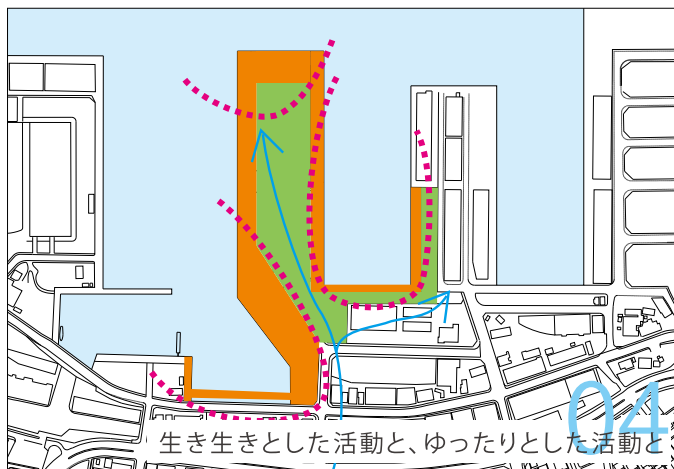
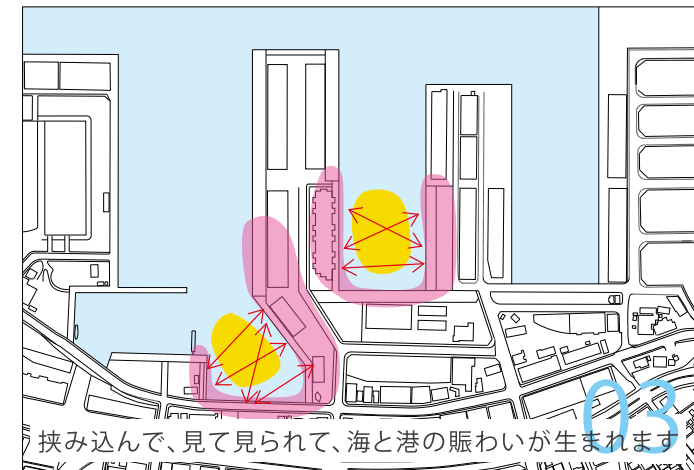
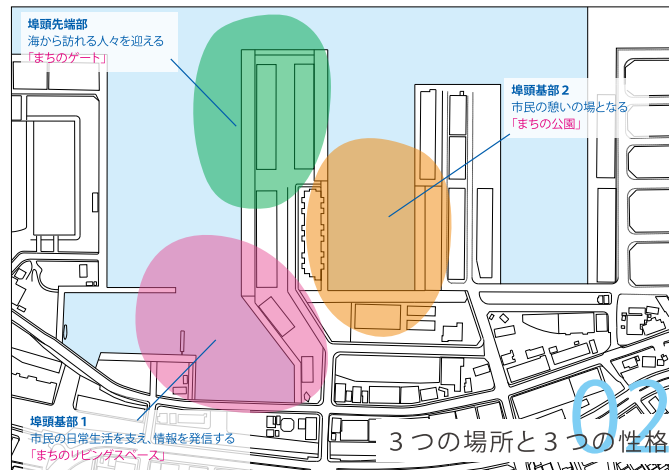
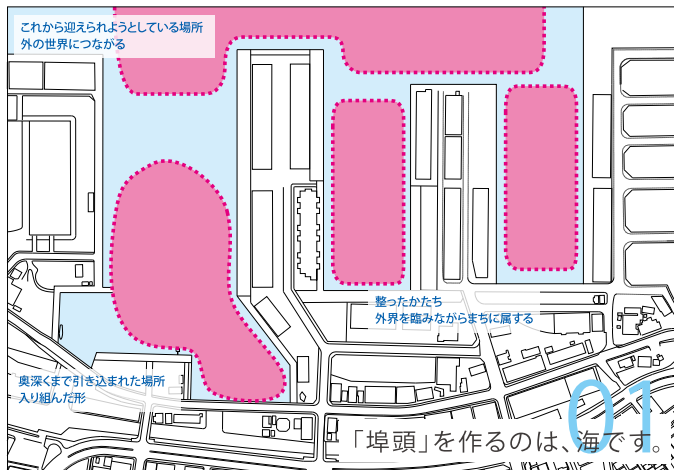


nissei
kousei

N 合同会社 + GINGRICH

01 埠頭と活動の場

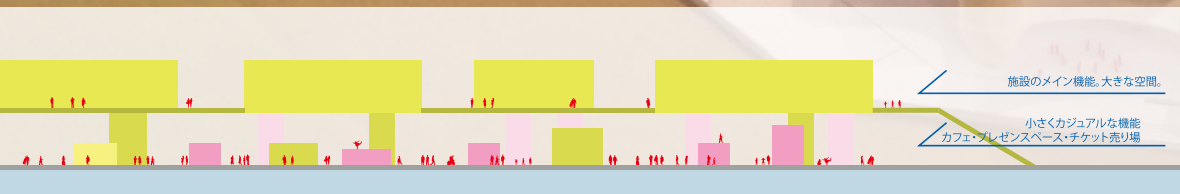
海と埠頭の関係、活動の名前、活動の場の種類を考えることがテーマです。



02

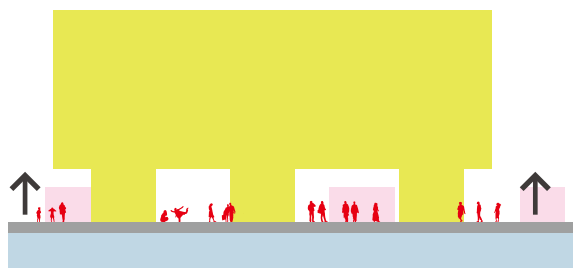
空間デザイン - New Scheme

活動の場がより豊かになるように、また、小樽の港や街並みのスケール感に合うように、新しいボリュームを考えました。

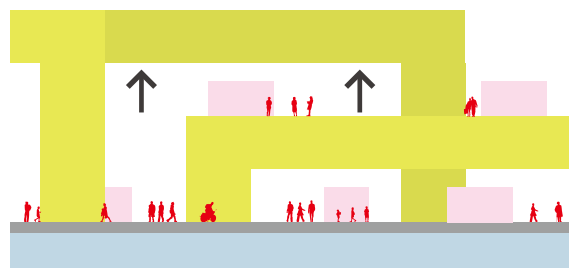


first sketch

ひらべったい隙間のない建物。
海と港を分断し、賑わいが生まれにくい



建物を持ち上げて、足元に小さな活動の場を作り出します。



上空にも隙間をつくり、街と海とのつながり
を増やすとともに、賑わいを建物全体に広
げます。



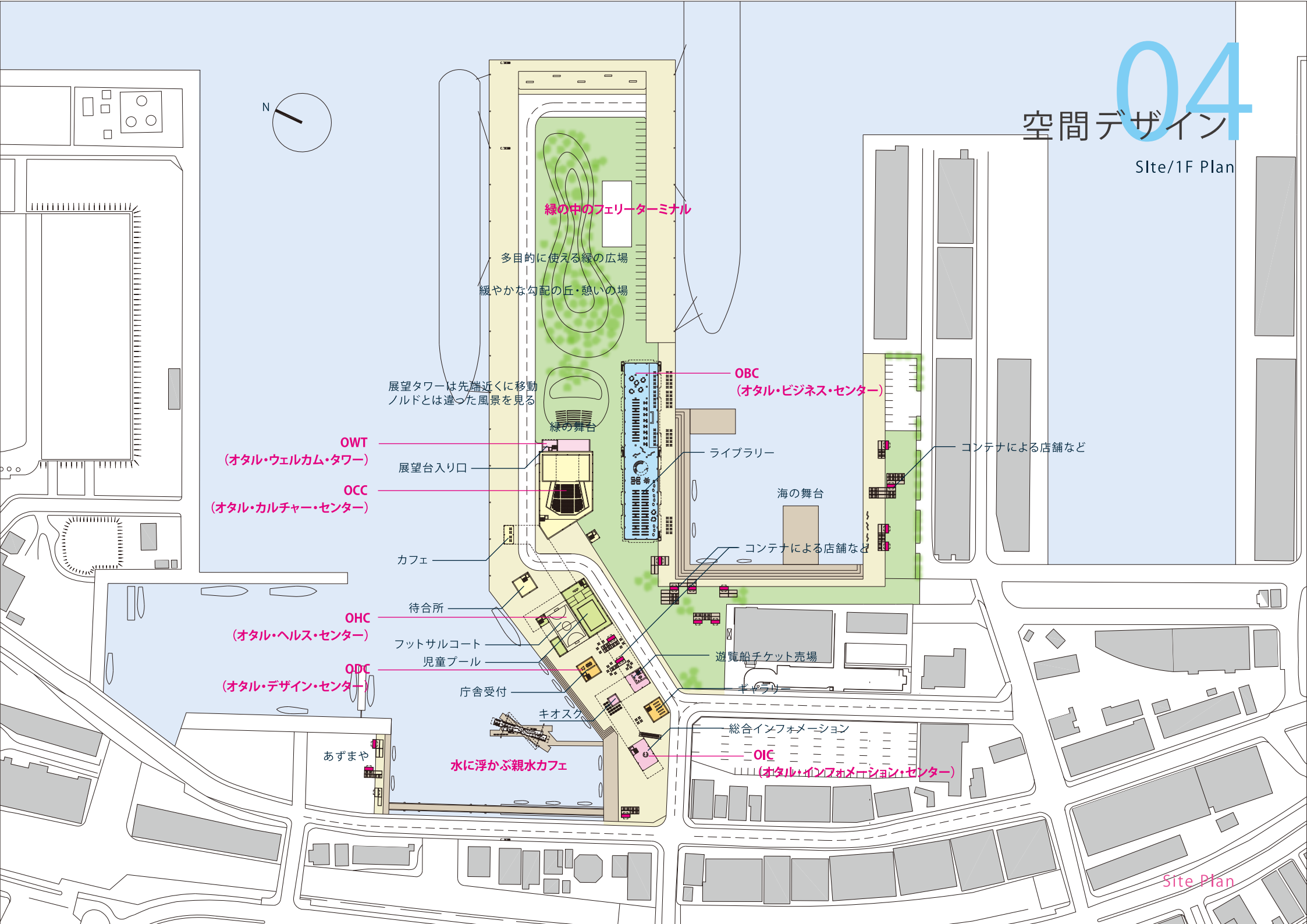
立体的にそれぞれの活動(施設)を噛み合
わせることで、様々な活動の出会いが生ま
れます。

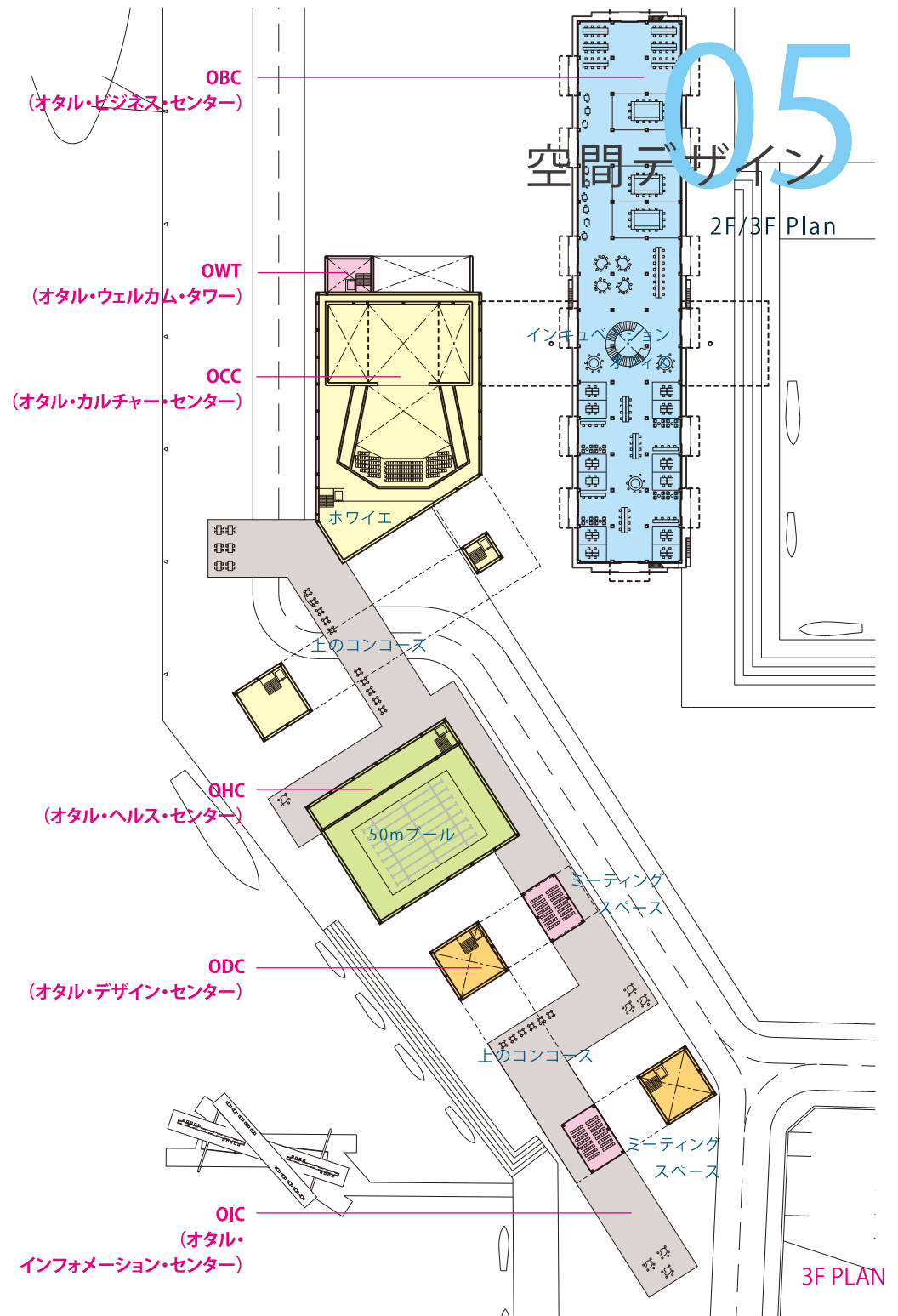
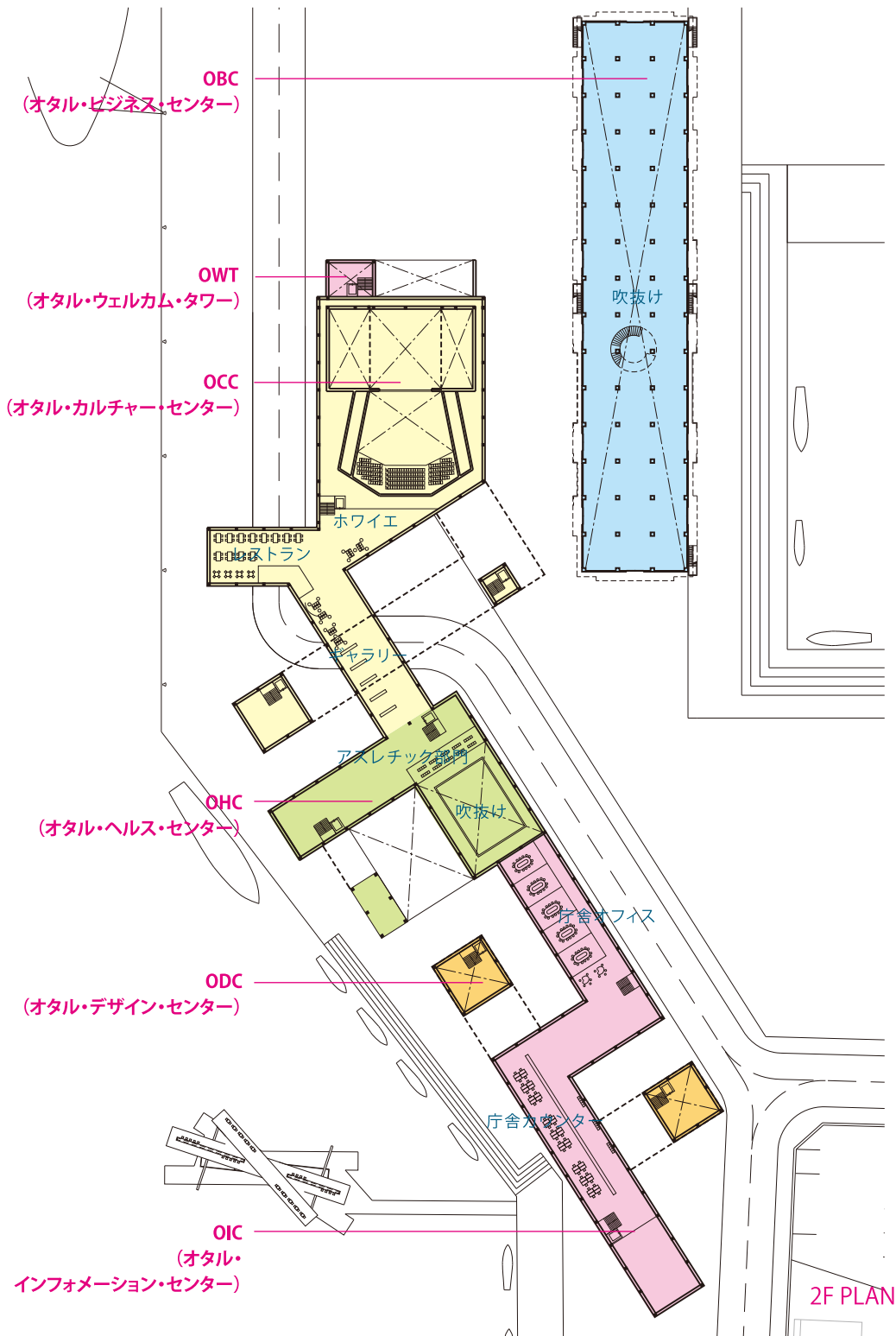
03

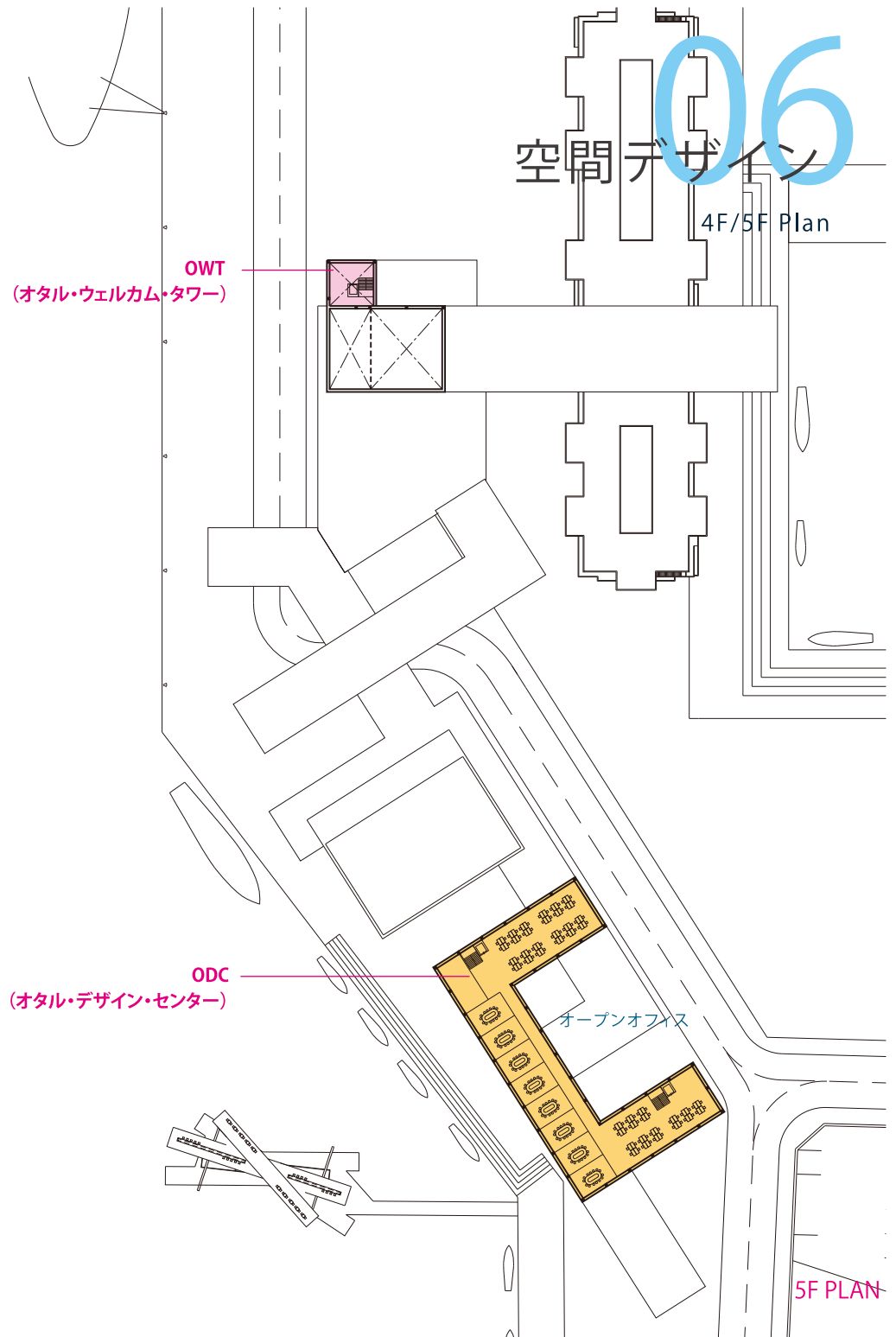
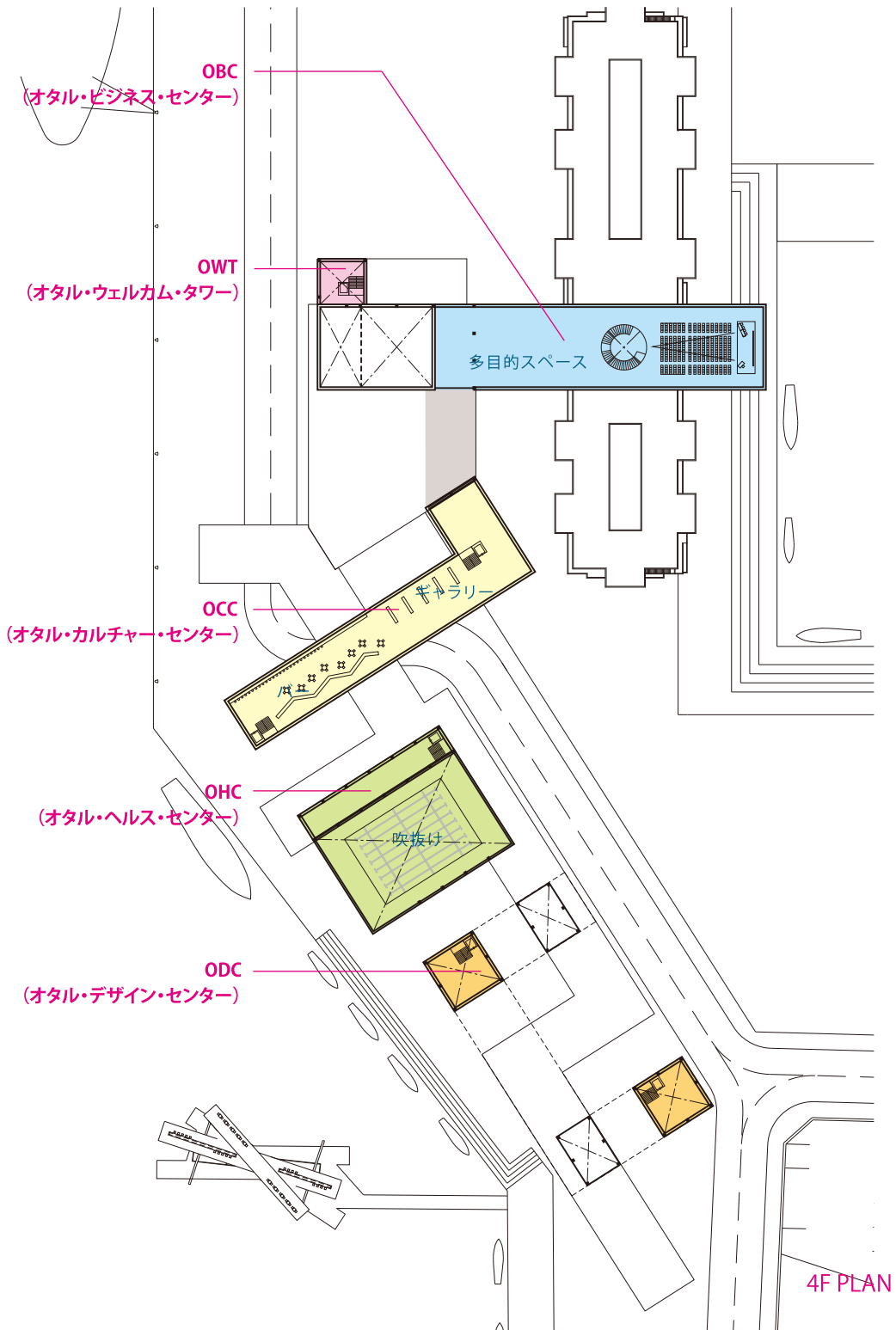
空間デザイン

イメージ図





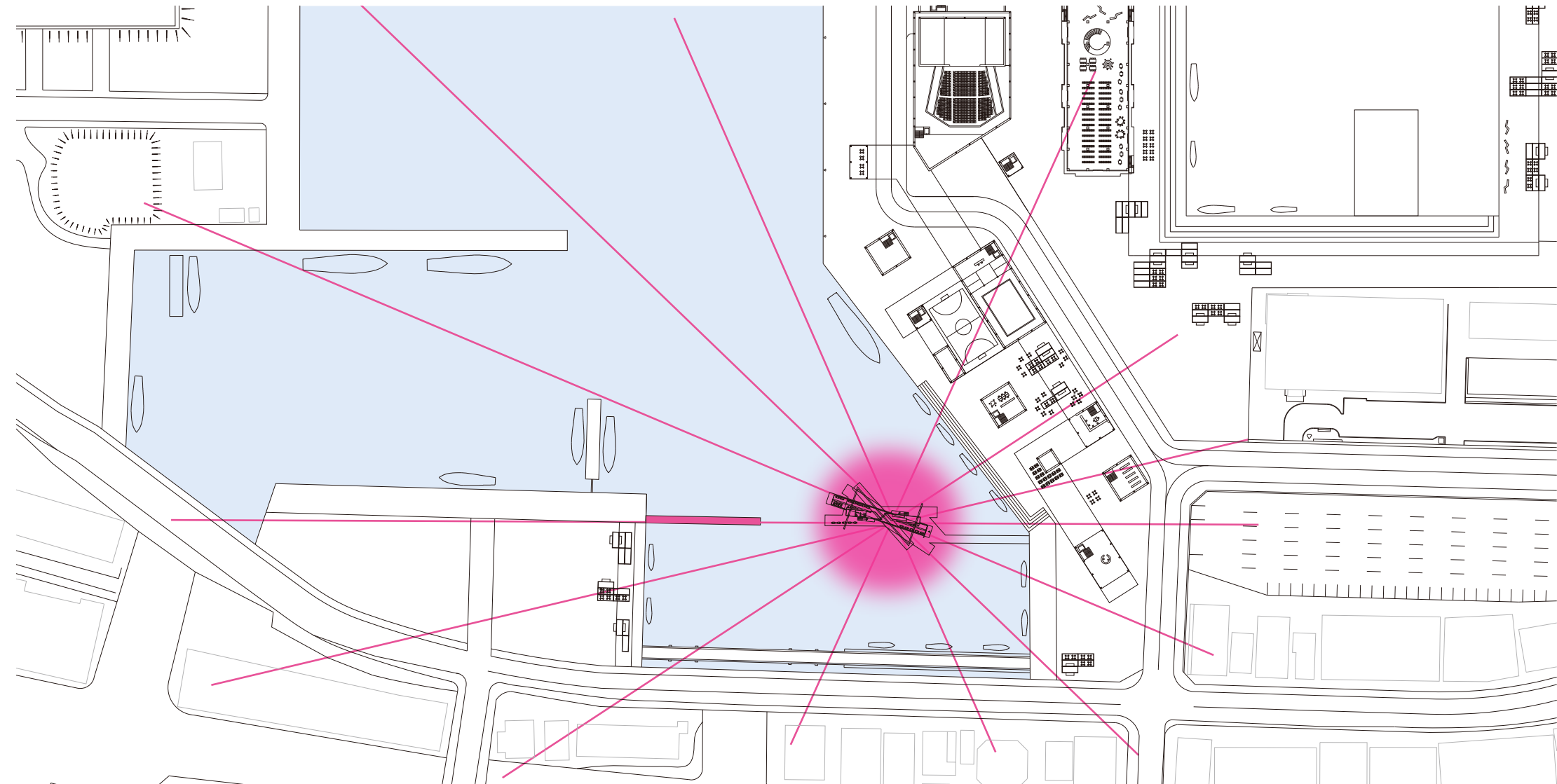




07

風景の羅針盤

埠頭基部には様々な軸線があります。
かつての税関跡地にあった栈橋、色内埠頭公園、新しい港の諸施設などの近い場所から、遠くには赤岩山、そして何よりも石狩湾への眺め。
海に浮かぶ新しいカフェは、小樽港が持つ様々な風景へと自然に目が向くような、多様な視線を持つ羅針盤です。



08

風景の羅針盤

コンパクトでシンプルな構成の中に、
豊かな視線の動きがあります。

石狩湾をのぞむ展望デッキ

RF plan

景観の良い時期に使用する屋上テラス

石狩湾をのぞむ

歩くごとに移り変わる風景・飽きの来ない構成

旧税関跡地へ思いをはせる

客席

マネージャー
ルーム

機械室

バックバー

ラウンジルーム

客席

entrance

道路側から良く見える客席部分

延床面積：165㎡
客席数：40席（内部）+40席（外部）

1F plan



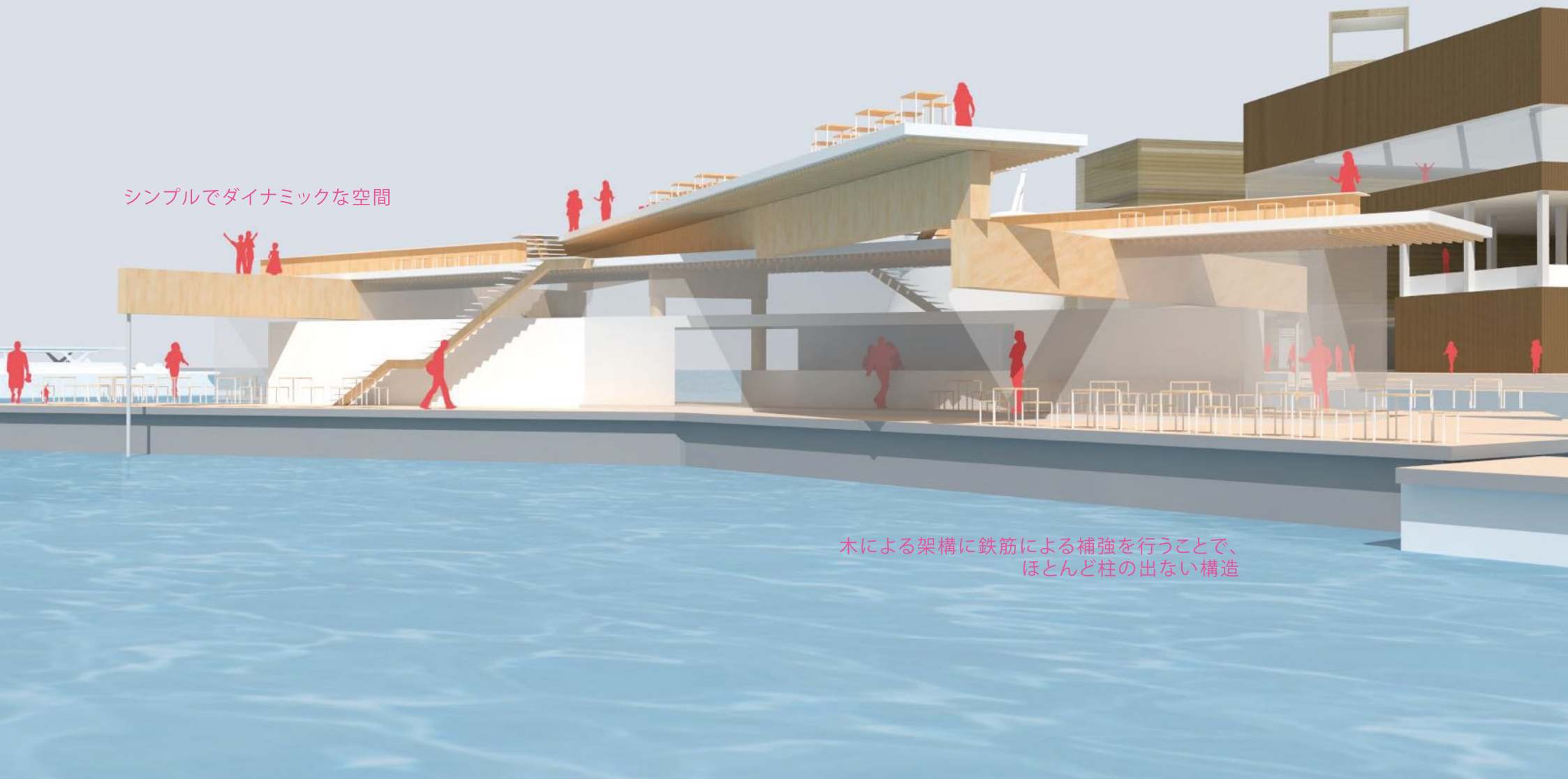
09

Perspectives

Cafe

シンプルでダイナミックな空間

木による架構に鉄筋による補強を行うことで、
ほとんど柱の出ない構造



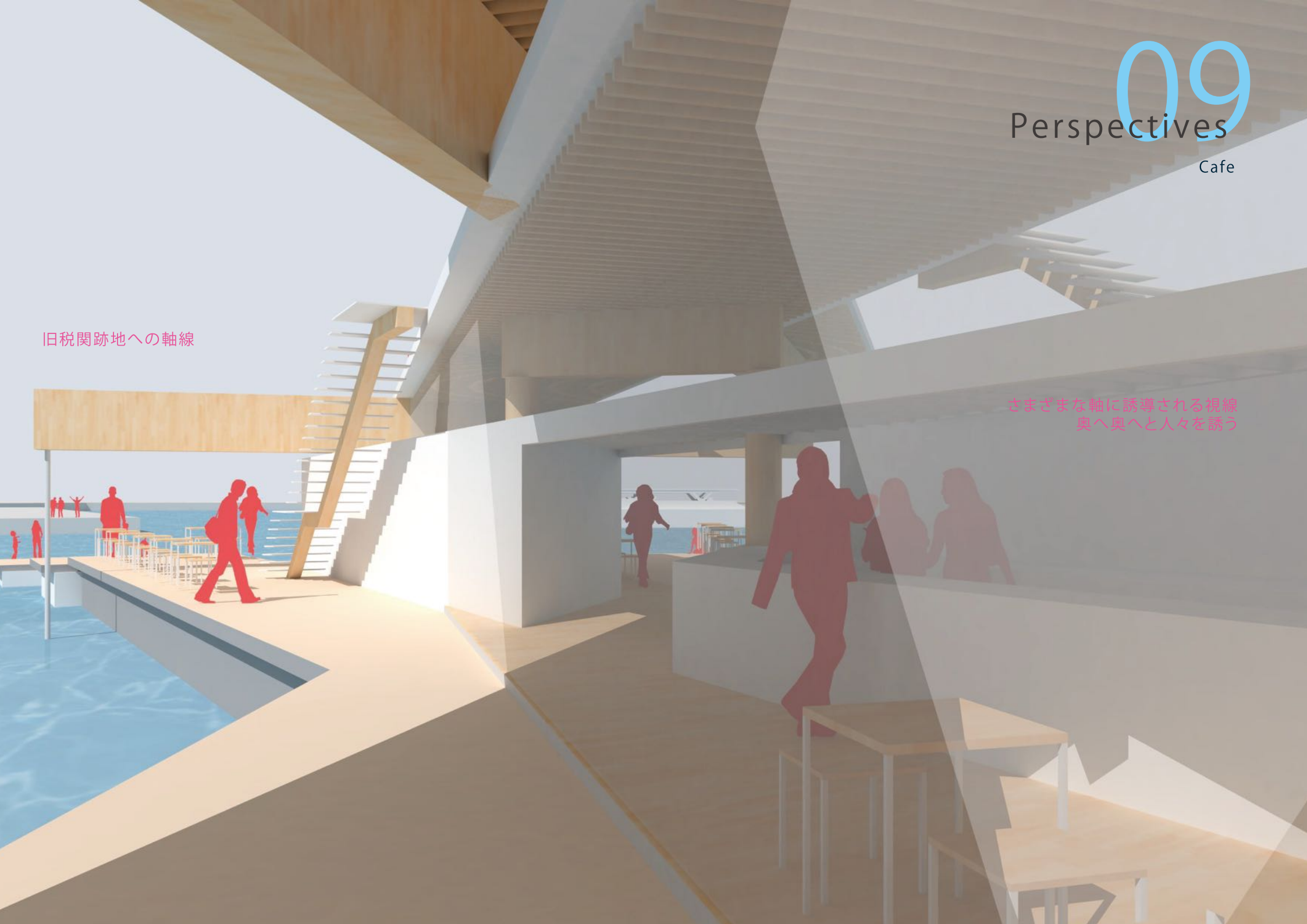
09

Perspectives

Cafe

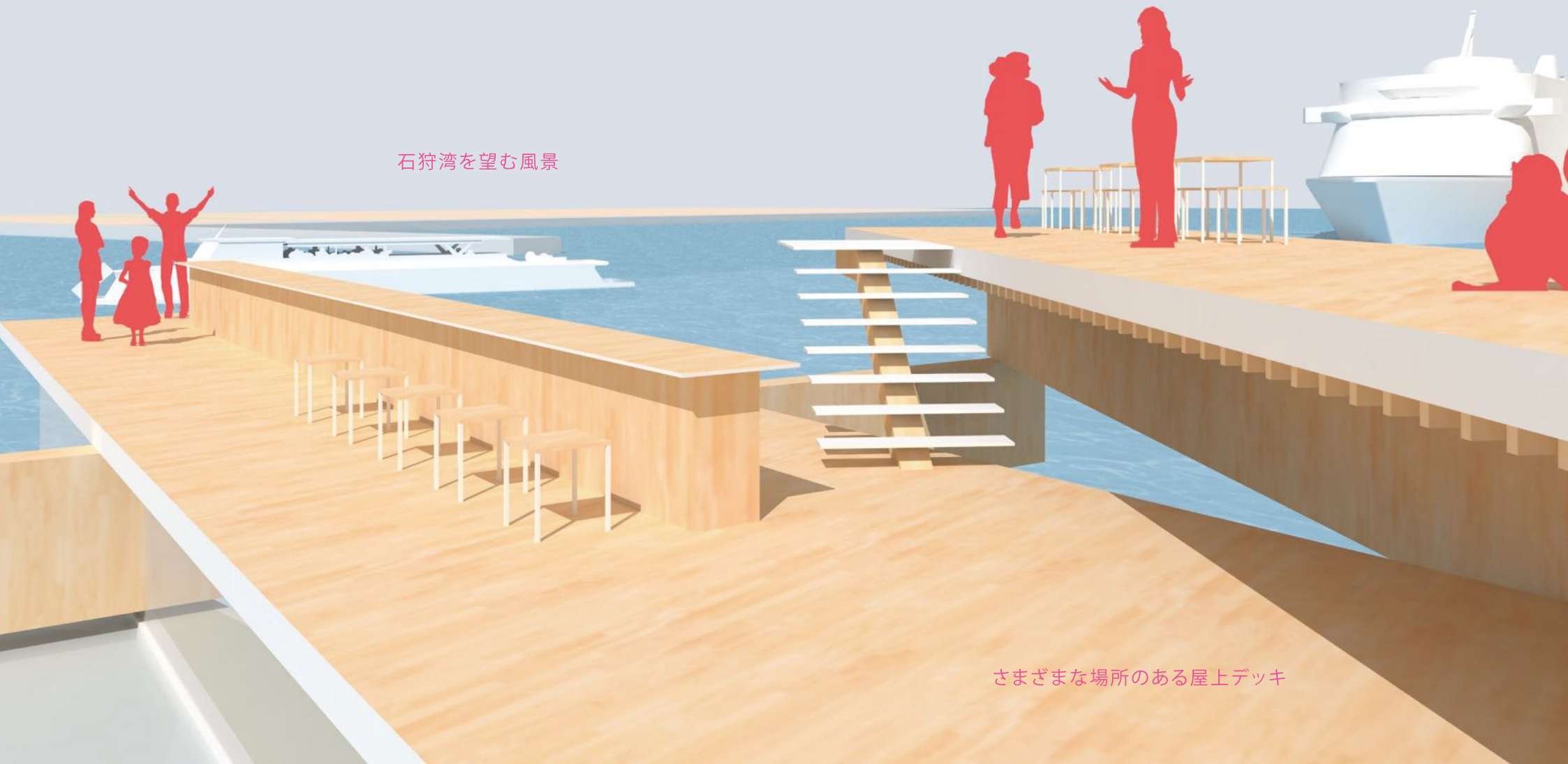
旧税関跡地への軸線

さまざまな軸に誘導される視線
奥へ奥へと人々を誘う



石狩湾を望む風景

さまざまな場所のある屋上デッキ



10 Perspectives

小樽駅からのアプローチ

外装は木ルーバーとしてやわらかな雰囲気演出

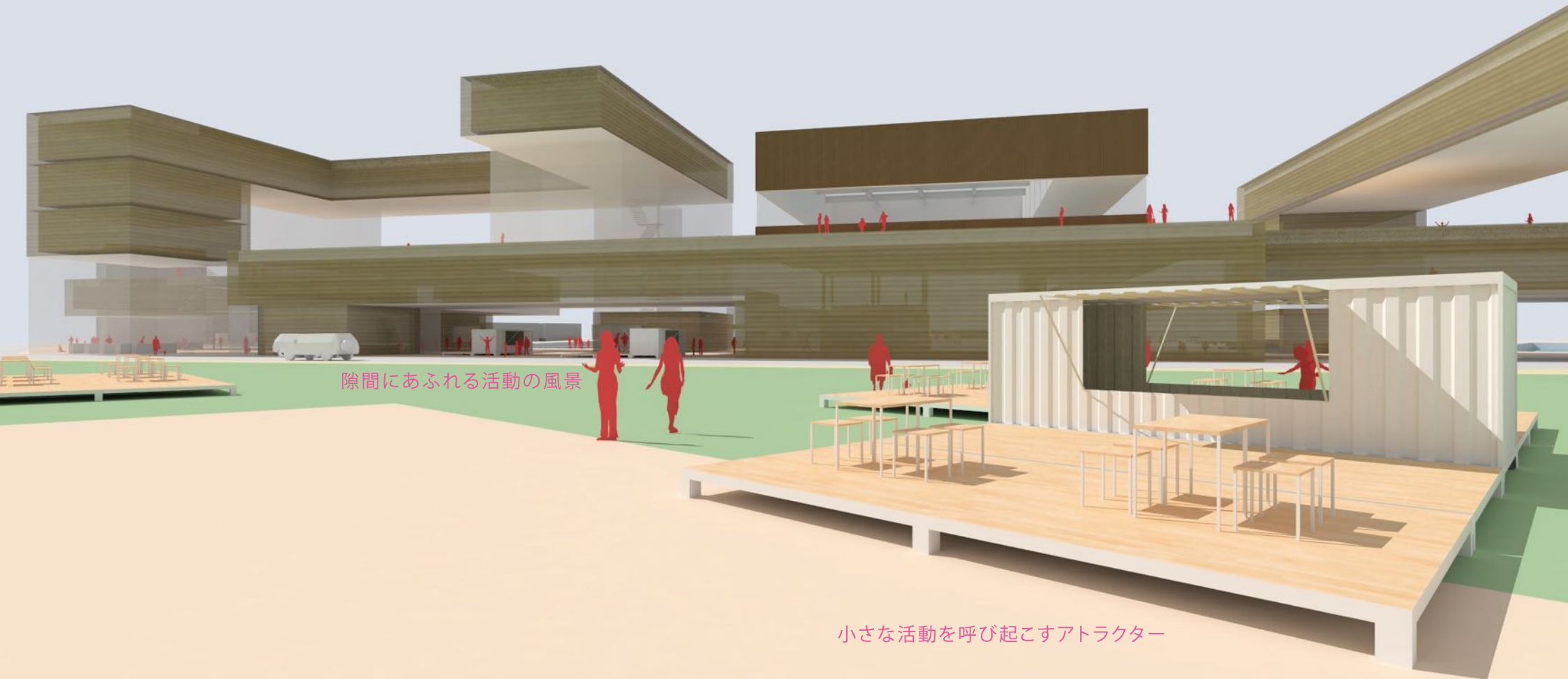


訪れる人々を、活動の風景が迎え入れる

海への眺めを妨げない配置

10 Perspectives

現市庁舎前広場から



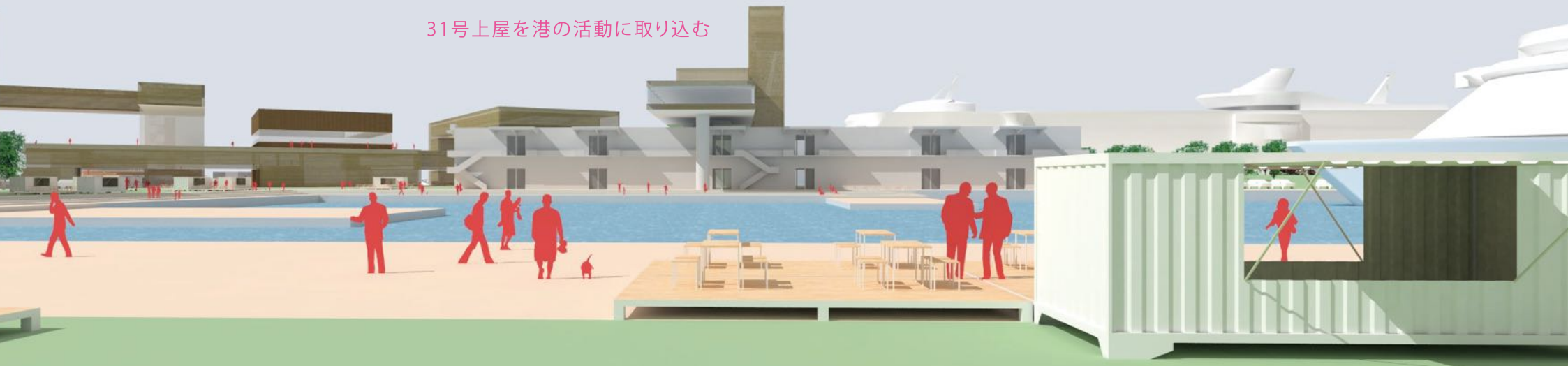
隙間にあふれる活動の風景

小さな活動呼び起こすアトラクター

10 Perspectives

31号上屋対岸から

31号上屋を港の活動に取り込む



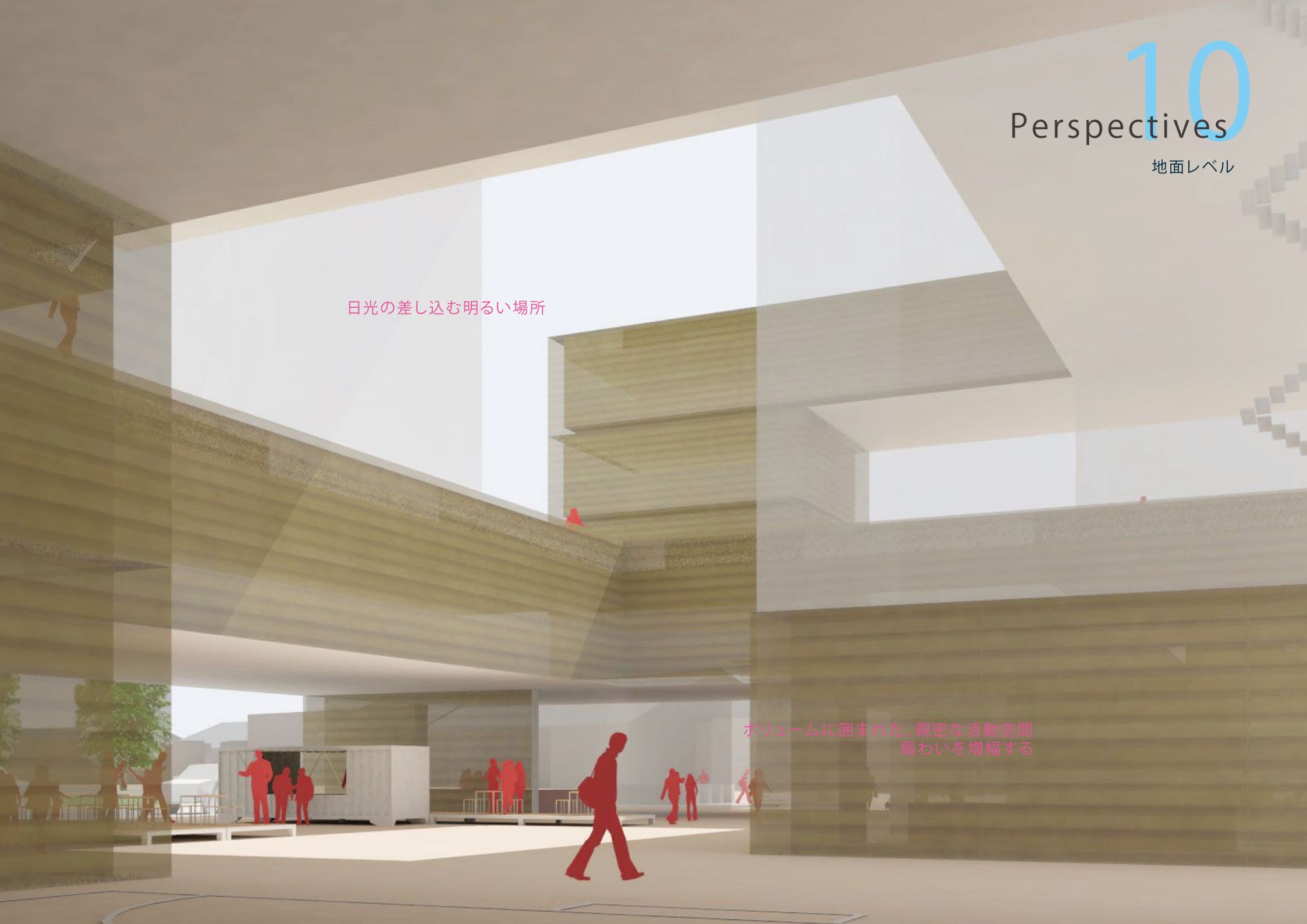
小さな活動呼び起こすアトラクター

10 Perspectives

地面レベル

日光の差し込む明るい場所

ボリュームに囲まれた、親密な活動空間
賑わいを増幅する



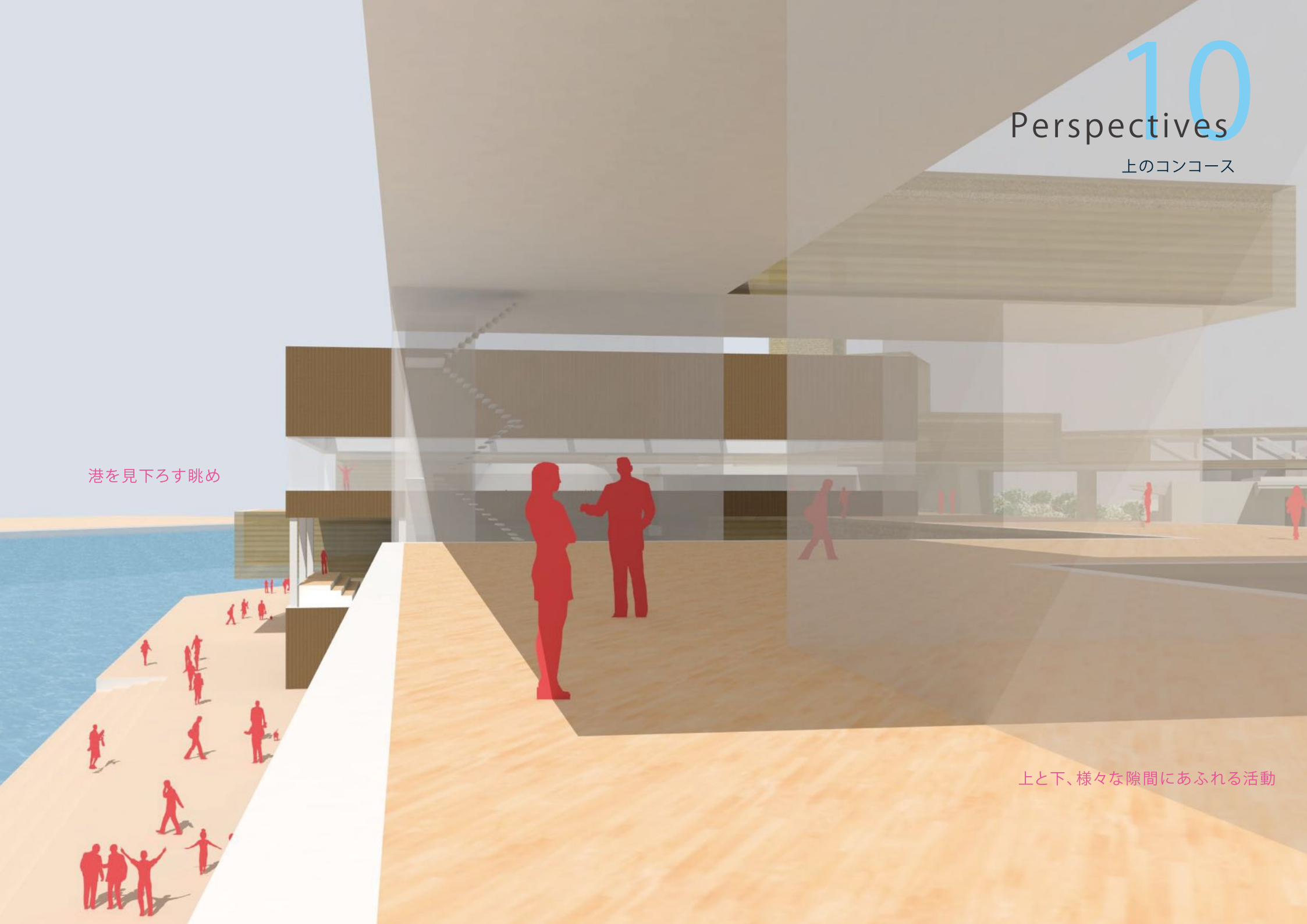
10

Perspectives

上のコンコース

港を見下ろす眺め

上と下、様々な隙間にあふれる活動



10 Perspectives

旧税関跡地から見る

隙間にあふれる活動の風景

カフェに集まる人々

小さな活動呼び起こすアトラクター



10 Perspectives

海から見る

海からのランドマークとしてのウェルカム・タワー
訪れる人々を迎え入れるシンボル

豊かな緑の下の憩いの公園

